

■総会 Report

職員の紹介

—自己紹介—

日本風力発電協会 事務局 部長 相場 茂

はじめに

昨年（H26年）10月1日から事務局職員として勤務しております相場茂と申します。協会誌が発行される頃には入職して既に10ヶ月を過ぎていることとなりますが、まだまだ知らないことや新しく経験することが多く、暗中模索・五里霧中の状況です。

経歴

1975年に電機メーカーに就職して以来、40年近く水力、火力、DG及び燃料電池等の発電プラントの主回路（高圧電気回路）、所内回路及び発電設備の制御・保護・監視システムの設計・エンジニアリングに従事してきました。特に水力発電所については、30年以上に渡り国内外のプラントの新設工事および設備の改修工事に関わりました。

記憶に残っているプロジェクトは、やはり問題なく納入できたものよりトラブルも含めて苦労した案件が殆どです。

- ・国内某発電所で水位調整がうまくいかず、上部水槽から溢水がかなりの期間継続し、電力所所長に「今日も銭が流れて行く」と嫌みを散々聞かされたこと（2階の所長室の窓から水の溢れる状況が丸見え）。
- ・国内某発電所の納入試験で、所定の機能通りに動かず「配電盤ごと持って帰れ」と言われたこと。その時「背負わせてもらえれば、背負って帰ります」と返して受けた（呆れられた）こと（まだ良い時代だったような）。
- ・1週間の予定で\$500を持って（持たされて）アパートヘイトの風潮が残る某国へ調整試験の応援に行き、滞在が2ヶ月以上延びた結果、現地建設事務所の同僚から多大な借金をして生活していたこと。
- ・現在ではタリバーンの活動地域とされている某国北部の山岳地帯での現地調査で、現地到着後の初仕事が自分達の罫を確保するために宿泊先であるゲストハウスに住み着いていたホームレスを追い出すことだったこと。

JWPAでの業務

電機メーカーで担当した風力関連の仕事と言えば、某自治体の風力発電設備の雷撃による機器の損傷防止策の検討及び接地系統の見直しと風力発電向けの励磁装置の見積り（風力の状況を理解せずに対応したため、高過ぎて没）等の片手間の相談レベルのものしかありません。

JWPAで事務局の業務に携わってみて、今までの技術屋として経験してきたこととの違いに目を見張ることが多くあります。一例として挙げると次のようなものです。

- ・政府系も含めた多種多様な委員会への参画や傍聴。参画だけでなく傍聴も情報を広く収集するには欠かせない手段だと言う事を改めて認識した次第です。
- ・業界団体の重要性。政府・政党も政策立案の参考にするための重要な窓口としていること身近に感じました。長らく居た水力発電業界には、メーカー、事業者、工事業者やコンサル等の幅広い業種が集まる協会に相当するものが無かったため、政策の情報に生で触れるチャンスはありませんでした。
- ・制御装置・コンバータのブラックボックス化。技術屋として電気機器の内部回路やブロック図は気になる場所ですが、公開された資料がなくブラックボックスになっているようです。

JWPAでは、系統部会の活動のサポート及び電気学会・電気協会の委員会を担当させていただいております。

おわりに

本年3月末で協会を退職された斉藤哲夫さんに声をかけられて、電気系技術者であることから後任として入職しましたが、風力発電に関する経験の長さ、関連する分野の人脈の広さ等、とても足下にも及ばず、まだまだ至りませんが、風力発電導入拡大のために微力ながら力を尽くす所存ですので、今後とも皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。